

上曾トンネル周辺地域活性化基本構想 ～概要版～

発行年月 令和5年3月
発行者 桜川市
〒309-1293 茨城県桜川市羽田 1023 番地
電話 0296-58-5111
編集 市長公室企画課

■計画策定の背景 及び目的について

現在桜川市と石岡市間を結んでいる峠道（上曾峠）の下を、新たな道路としてトンネルでつなぐ（仮称）上曾トンネル整備事業が平成30年より開始されており、令和7年度の開通が予定されています。
周辺地域が目指すべき方向性や必要な機能を示すことで、トンネルの開通に併せたまちづくりを進め、周辺地域の魅力を高め、地域の活性化を図ることを目的として、上曾トンネル周辺地域活性化基本構想を策定します。

■目指すべき方向性

上曾トンネルの開通をきっかけとして、住民にとっても来訪者にとっても魅力的な地域を目指し、“おふくわけ”※で活性化していく地域へ。

※おふくわけ
よそからもらったものを、他に分けてやること。本地域には“おもてなし”の文化があり、訪れてくれた人をおもてなしします。本地域においても地域の持つ資源や各自の持つ資源を使って人にふくを分け与える。その人がまた誰かに分け与えていくことで魅力的な地域を作っていきます。地域内外の人でふくを分け与えていきます。

■必要な機能

①情報の発信

1-1 地域の魅力を 発信していく機能

真壁城跡や重伝建地区等の地域の持つ歴史・文化や豊かな自然環境、石材産業の歴史、“おもてなし”の取り組み等、上曾トンネル周辺地域の魅力を、住民や観光客等の地域内外へ発信していくことで、地域への愛着の醸成と地域外からの誘客を図っていきます。

1-2 情報プラットフォーム機能

情報を一元的に発信していく案内所機能を整備し情報プラットフォームを構築することで、地域の魅力的な交流の場や体験コンテンツに、来訪者がアクセスできる環境を整備していきます。また、上曾トンネル開通に伴う交通量の増加を通過交通にしないよう案内所より情報を発信していきます。

②交流の創出

2-1 ゲートウェイ機能

真壁城跡南側空き地を活用し、地域外からの来訪者を、重伝建地区やつくば霞ヶ浦りんりんロード等の魅力的な場へ送り出していく地域の玄関口としての機能を設置していきます。

2-2 市民と来訪者が 交流できる機能

住民や地域に愛着を持った方、来訪者等、人と人が出会い交流することで、新たな取り組みを生み出していく機能を獲得していきます。

2-3 地域の人が交流し 楽しく暮らせる機能

地域の子どもたちや高齢者等、誰もが楽しめ、安全・安心に暮らしていける地域づくりのため、多世代で交流できる機能を獲得していきます。

③体験づくり

3-1 豊かな自然環境を 保全・活用していく機能

地域の豊かな自然環境を活用したアクティビティの提供や、自然景観を活用した体験づくりを行っていくことで地域の自然環境の保全・活用を図っていきます。

3-2 家族で楽しめる機能

家族連れや小さい子どもでも楽しめる体験をつくることで、魅力ある地域を目指していきます。

3-3 地域資源を活用した体験機能

地域の資源を活用した食事や体験等、地域に滞在できる機能を獲得していき提供していきます。

④歴史・文化の継承・活用

4-1 重伝建地区の保存・活用機能

重伝建地区の保存や活用を地域への愛着や誇りの醸成につなげ、新たなチャレンジの場づくりや次世代への継承を図っていきます。

4-2 真壁城跡と連携した まちづくりの機能

真壁城跡の各種調査や取り組みと連携していくことで、地域の歴史・文化を一体的に捉え継承・活用していく機能を確立していきます。

⑤市民活動の支援（仕組み化）

5-1 地域での活動を支援する機能

上曾トンネル周辺地域で、なにか始めたいと考えている人がまちづくりへ参加できる仕組みづくりを行っていきます。

5-2 地域への誇りを 継承していく機能

1-1から5-1までの機能の獲得を踏まえ、地域の持つ誇りや魅力を継承し、地域への愛着を育むことで、地域に関わっていく人を増やしていきます。

■今後について

基本構想の策定後には、市民参画で、構想の実現を目指していきます。

○個別計画の策定

○関連計画と整合性を図った機能の具体化

○分野別の施策化

■地域の将来像

必要な機能を獲得していくことで、“おふくわけ”で活性化していく地域を目指していきます。
そこでは、例えば以下のような取り組みが行われています。※場所や内容等はイメージとなります。

